

ごあいさつ

異質で溶け合わない、混じりあうことがなくしっくりこない、などという状況を「水と油」と表現します。画材である水彩絵具や油絵具も「水」と「油」という字が表すごとく異質であり、両者は互いに混合すべからざる存在です。

水彩と油彩は、日本においては江戸末期以降、本格的に移入・学習されるようになりました。しかし、西洋の精神を受容すること自体が大きな葛藤を生じさせた時代、両者が異質で別個の歴史をもつ技法であると正しく認識されるためには長い時間を要しました。洋画家たちは苦勞しながら試行錯誤をかさね、大正期以降には、水彩と油彩それぞれが独立した表現として確立されていきます。

今回は、画材としてすっかり馴染み深いものとなった水彩と油彩に、あらためて注目しました。表現のしかたや絵具の質感なども比較しながら、ゆっくりとご覧ください。

創意溢れる多彩な作品から、水彩と油彩、それぞれの可能性を感じていただければ幸いです。

2016年3月

たましん歴史・美術館